

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年10月)

～現状判断は4か月連続で低下、今年1月以来の50割れへ～

- 景気ウォッチャー調査・10月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が4か月連続で低下した一方、先行き判断は上昇となった。
- 足元の状況については、雨が少ないなど天候面では好条件に恵まれたほか、中国の国慶節に伴う盛り上がりなどでインバウンド関連の好調は続いている一方、スーパーや衣料品専門店を中心に客足の減少を指摘する声が増えるなど、消費者の動きに全体的な鈍さがみられたことから、現状判断DIの低下につながったとみられる。かねてから身の回り品などの値上げが続いていることもあり、企業の間では消費者の節約志向に対する懸念が徐々に強まっている。
- 一方、先行きは、中国経済の減速に対する懸念の声が依然として多いほか、物価の上昇に対する懸念も強いものの、クリスマス・年末商戦の盛り上がりに対する期待は高く、結果としてDIの上昇につながっている。
- 中国経済の減速による影響については、依然として先行きに対する懸念が中心であり、実際に大きな影響が出ているとの声は少ない。また、先行きの見通しについても、「影響は軽微」とする声も散見されるなど、深刻な影響を懸念するものは比較的少ない状況である。

「中国経済」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や 良 く	その他専門店〔宝石〕(経営者)	・株価は中国の景気後退による影響で、少し上がったりがったり下がったりしているが、国内では金の相場が高いままであり、客の購買意欲は以前よりも高まっている。
	変 わ ら な い	百貨店(服飾品担当)	・10月に入っても、依然として都心型店舗の売上の伸びは変わらず、中国の景気後退の影響はまだ感じられない。化粧品関連の売上は前年比で120%を超え、バッグ、財布といったアイテムも110%と堅調に推移している。この時期は、来年度の商材の展示会が多いが、各メーカーともインバウンド対策の商材が多い。特に、本国でも取り扱っているが、日本との価格差が激しいブランドに力を入れている。一方、国内消費は悪くないものの、販売数量はほぼ前年並みとなっている。インバウンドで込み合った店での買物に、やや気後れしていると感じられる。
		百貨店(外商担当)	・中国の景気減速により、訪日外国人の売上の減少が懸念されたが、実際には好調を維持しており、インバウンド売上は前年比で2倍となっている。ただし、国内客の買物の中心である婦人服は、依然として前年割れが続いており、決して景気全体が良くなっているとはいえない。

「中国経済」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	く や な や 良 く	都市型ホテル(客室担当)	・中国の株価下落による影響が出るかと思われたが、依然として売上は増加傾向である。中国からの客が若干少なくなったとしても、国内需要とほかの東南アジアからの客で十分補えそうである。
	変 わ ら な い	百貨店(売場主任)	・中国ではバブルが崩壊し始めているといわれているが、インバウンド消費には大きな変動がない。地域の消費者の動向も、大きなプラスになる要素はないが、マイナスになる要素も見受けられない。
		百貨店(商品担当)	・中国経済の減速の影響や、冬のボーナスがどれだけ消費に回るかが鍵を握ると思うが、不安定な動きを考えると楽観視はできない。

家計動向関連	変わらない	百貨店（マネージャー）	・中国を中心とする海外経済の減速が懸念されるものの、現状は百貨店での影響はみられない。また、株価も上がったり下がったりを続けているものの、1万9千円台の回復が見込まれており、富裕層の消費は好調が続くと予想される。一方、来客数の大半を占める中間層においては、賃上げや今夏の賞与増などがあったものの、それが消費に回っている実感はないため、鈍い動きが続くと考えられる。
		百貨店（マネージャー）	・海外では中国景気の後退に加えて、米国の金利動向の不透明感が強い。国内では消費税増税に向けた動きが大きく報道されるなか、消費者心理への影響が大きくなると思われる。その結果、消費者や消費分野の二極化が進むため、マーケット対応力の差により、地域や業種による格差が更に拡大する。
		スーパー（店長）	・夏もそうであったように、バーゲンよりもシーズンの最初に少し良い商品を買う傾向が続く。一方、人の目にふれない物や食品に対する支出を抑えるため、家計の支出総額は変わらない。少し収入が増えたとしても、次の消費税増税や社会保険制度の変更、中国経済の失速などへの不安が、消費者の頭から離れることはない。
		都市型ホテル（支配人）	・中国の景気が不安定で、株価も同様に不安定となっている。日本の株価は最近1万9千円台に回復したが、また暴落する不安もあり、なかなか景気が回復しているとはいえない。しばらくはこの状況が続く。
		通信会社（企画担当）	・中国経済の失速への懸念はあるが、影響は大きくないと思われる。そのほかに悪い要素は見当たらない。
	くや な や 悪	スーパー（店長）	・中国経済の減速が企業業績に影響を与え、街角の景況感の悪化にもつながる。歳末商戦は、更に消費の二極化が進行する。
企業関連	変わらない	化学工業（管理担当）	・中国経済の減速が予想されるほか、米国の金利引上げ時期が未定であり、先行き不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・最近では世界的経済が混んとしており、中国の不景気や米国の利上げなど不透明な要素が多いため、長期的な計画を立てにくい。
		その他サービス業 〔店舗開発〕（従業員）	・中国経済のバブル崩壊への不安が続いているが、ここ数か月をみる限り、中国を中心とした外国人観光客の国内消費は下げ止まる様子がみられない。今や関西の景気を左右しかねない要素となっている。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13					14					15														
		月 10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現 状 判 断	近畿	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9
	(全国)	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2
先 行 き 判 断	近畿	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4
	(全国)	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1